

2021年度 支援活動報告(データ編)

2021年度のデータ検証の前提

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた1年でしたが、研修が復調の兆しを見せています。ソーシャルディスタンスを保った形での対面研修も実施できました。無料Webinarと併せて研修体制を作っています、もちろん個別支援も継続しています。

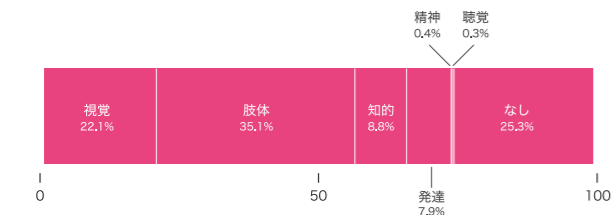
障がい種別の割合

【視覚障がい】大学病院眼科のビジョンサポート外来での支援は継続しています。【肢体不自由】感染症対策をした在宅訪問などが続いています。【聴覚障がい】音声文字変換アプリなどを紹介しています。【知的・発達障がい】コミュニケーション支援などに協力しています。【なし】階層型支援のための研修を実施しています。

障がい種別 集計

	視覚	肢体	知的	発達	精神	聴覚	なし
2021年度	150	239	60	54	3	2	172

(単位:件)



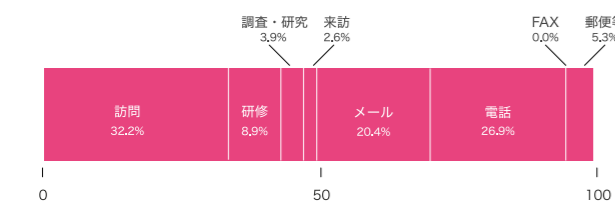
相談方法別の割合

大学の来訪制限は継続中で来訪者数は少ないままです。一方、研修件数は増加し、コロナ前の水準に戻りつつあります。YouTubeの無料Webinarと併せて階層型支援モデルが推進がされてます(詳しくは後述)。

相談方法別 集計

	訪問	研修	調査	来訪	メール	電話	FAX	郵便等
2021年度	188	50	23	15	119	157	0	31

(単位:件)



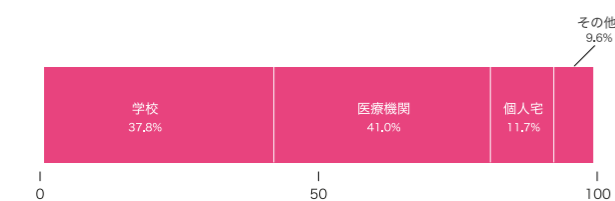
訪問先の内訳

今年度の訪問は学校と医療機関がほぼ半々でした。【学校】研修のための訪問が多くなっています。GIGAスクールに関連した依頼が多くなりました。【医療機関】大学病院眼科への定期訪問やリハビリーションでの機器提案などを実施しました。【個人宅】在宅療養中の方の意思伝達装置調整やPC・タブレットの導入相談・試用、ソフトウェアの使い方指導などを実施しました。

訪問先 集計

	学校	医療機関	個人宅	その他
2021年度	71	77	22	18

(単位:件)

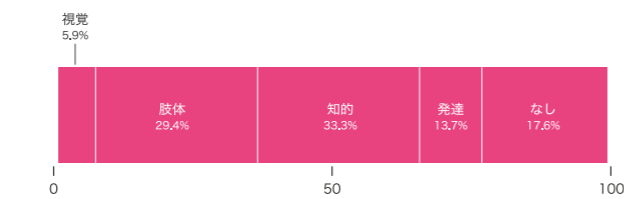


依頼研修

依頼研修は対面とオンライン合わせて2021年度は全49回開催し、のべ1,430名が受講しました。

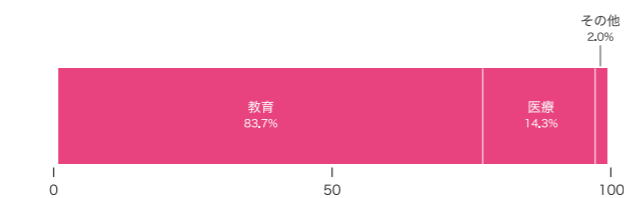
分野

依頼テーマは肢体不自由分野と知的障がい分野が約30%程度で多くなっています。全般的な内容を扱う「なし」が17.6%で続いています。発達障がい分野は13.7%、視覚障がい分野は5.9%でした。



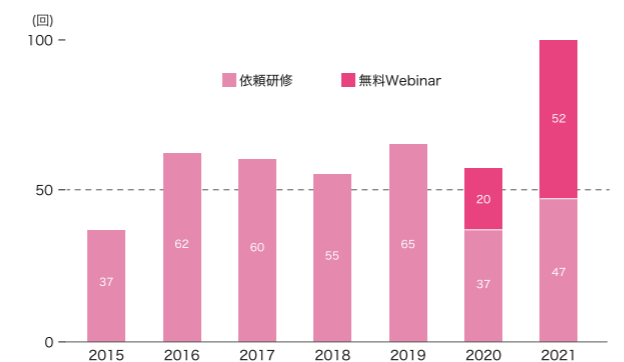
依頼元の種別

依頼元は教育機関が83.7%で多数をしめています。医療機関からの依頼は14.3%でした。今年度はGIGAスクールがはじまった影響で新潟市内全域の特別支援学級担当教員が参加する研修や通級指導教室向けワークショップも実施しました。これまでも特別支援教育分野からのニーズはありましたが、より具体的な情報が期待されています。



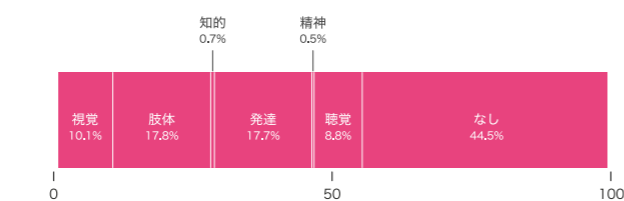
無料Webinar「ATティービー」

2021年度に公開したWebinar動画は52本でした。総再生回数は18,002回に達しています。市内の学校や病院のスタッフにも視聴者があり、コロナ禍の影響で依頼研修は減少しましたが、その減少分を無料Webinarで補い、市民が支援技術について知る機会を提供しています。

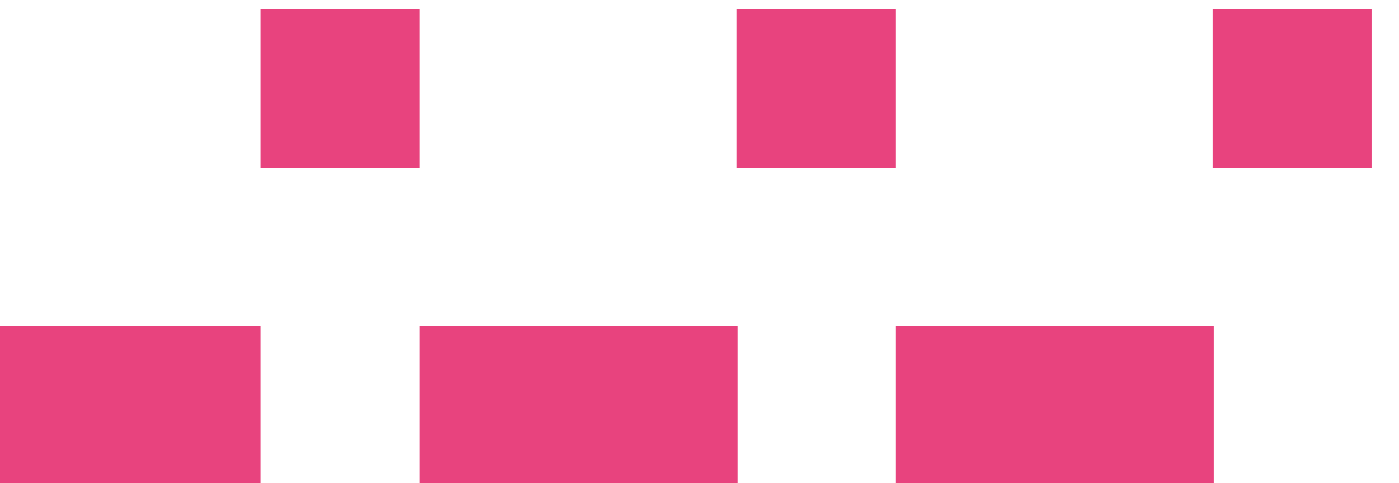


分野別視聴割合

無料Webinarでは特定の障がい種に限定しない「広く浅く」カバーした動画がよく視聴されています。今年度最も視聴されたのは「Windows11の新機能を試してみる」というアクセシビリティに関する新機能を紹介する内容でした。また、直接支援では件数の少ない聴覚障がいに関連した動画「音声文字変換アプリを試してみる」も比較的多くの視聴者を集めています。



※ 2022年2月までの統計

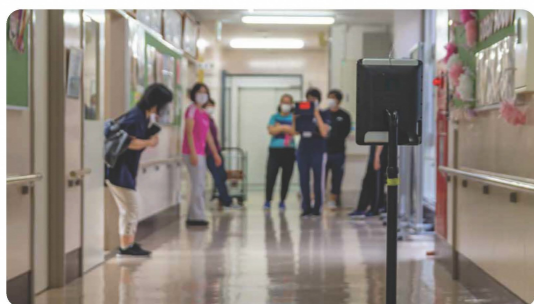
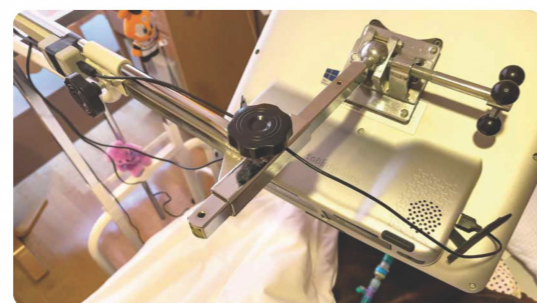
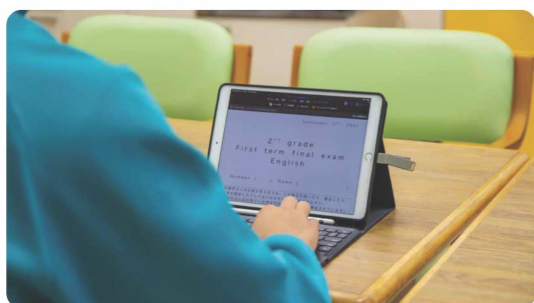


子どもたちが特性に合わせてフェアに学べる道具
大人たちが楽しみ・働ける道具
支援技術が支える学びと生活。

コロナ禍の個別支援

学校関係ではGIGAスクールに関連した依頼が増えています。各校に配布された端末(新潟市内はiPad)を障がい特性に合わせて調整したり、入出力支援装置として配布されている支援機器との組み合わせをアドバイスしました。例を挙げると、入院中の児童・生徒が多く在籍している学校では自走式のテレプレゼンスロボットを紹介したり、発達障がいのある生徒がiPadで定期テストを受けるための環境調整を行いました。医療関係では重度障害者用意思伝達装置の導入に関する相談や眼科外来での情報提供

などを実施しています。例を挙げると、意思伝達装置を在宅療養でも入院中でもスムーズに使えるように関連する作業療法士や臨床工学技士と連携して対応しました。眼科外来での月1回の相談も好評で半年先まで予約が取れない状況となっています。医療機関や学校を介さず直接寄せられるケースでは、障がい者施設で生活する方のスマートフォンのセッティングや在宅就労している視覚障がいの者のPC環境に関する相談に対応しました。



- 感染症対策をした個別支援の継続
- ひとり一台端末時代に則した学習環境の開発



対面・オンラインを組み合わせたウィズコロナの研修
受講者数、1,430名。再生回数、18,000回。
階層型支援の充実に向けた取り組み

医療機関向け

医療機関向けの研修はオンラインを中心に実施しました。実際に機器を展示して触れながら行う研修は人数制限をした形で1回だけ行いました。オンライン研修は多くの参加者から移動時間の節約なる等、高評価を得ています。研修はいずれも難病相談支援センターや作業療法士会、言語聴覚士会との共催で実施しました。



教育機関向け

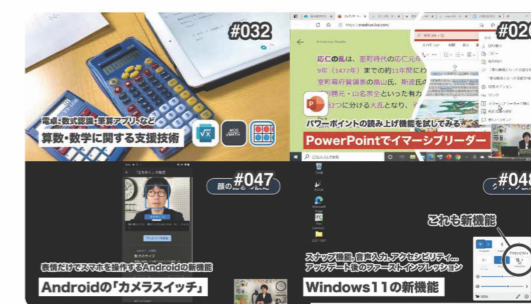
昨年度から続くオンラインでの研修に加えて、体育館を利用するなど工夫した形での対面研修を実施しています。教育機関ではこれまでの研修に加えて、GIGAスクールが本格始動したことを受け、小学校教員向けのアシティブテクノロジーワークショップや入出力支援装置の講習を行いました。



研修コンテンツ

昨年度11月からはじめたYouTubeでのWebinar「ATティービー」を継続中です。毎週金曜日に配信し、今年度は52本の動画を公開しました。年間の総再生回数はおよそ18,000回、総再生時間はおよそ1,900時間となりました。内容はPCやタブレット、スマートフォンのアクセシビリティに関する設定解説、新製品の試用レビュー、アプリ解説など多岐にわたります。なかでも、Windows11に搭載された新しいアクセシビリティ機能の紹介、音声文字変換アプリのレビューなどが多くの視聴者を集めました。また、一部の動画は海外の視聴者からもコメントが寄せられま

した。今後も、当センターが所有する機器を多くの市民に知らせると同時に、支援技術を活用した生活や学習の新しいスタイルを提案していきます。



- 研修コンテンツの充実
- オンラインと対面のバランスを考えた研修スタイル開発